

『投稿！わがまち自慢の一枚』



愛媛県西条市

西日本最高峰・石鎚山の麓に広がる、愛媛県西条市

朝の光にきらめく湧き水、耳に届くせせらぎの音。西条市では、水が暮らしの中心に息づいています。市内各所に点在する自噴井『うちぬき』は約3,000本。1日に湧きだす水の量はなんと約10万 m^3 にもなります。生活用水や農業、工業として活用されるだけでなく、趣ある水景として市民や訪れる人々を癒してくれる存在です。昭和60年には環境庁（当時）の『名水百選』に選ばれ、今も全国に誇れる清らかさを保っています。

霊峰・石鎚山は約1,300年前、修験道の開祖・役小角によって開かれたと伝えられています。かつて女人禁制だったこの山には、修行僧たちが厳しい道を登り、森と水の恵みに支えられながら修行しました。山の森は自然のダムとして雨水を蓄え、今も市民に名水を届けています。また、石鎚山の麓には、山の自然とともに歩んできた地域の歴史や人々の営みが感じられる景観が広がっています。

西条市の暮らしと産業を支える水の恵みは、農産物や魚介類だけでなく、名物グルメにも息づいています。市民に長く愛される西条てっぱんナポリタンも、水なしには語れません。熱々の鉄板の上でジュージューと音を立てるナポリタンは、まちの水と暮らしが生んだ味です。

そして、西条市の文化を象徴する『西条まつり』。祭りのフィナーレ『川入り』では、豪快に水しぶきをあげながら『だんじり』が川を渡り、担夫（かきふ）の気迫と、見物人の大きな歓声が街いっぱいに溢れます。祭りの熱気と水の豊かさが交わる光景は、西条市ならではの魅力を感じさせてくれます。

山を仰ぎ、湧き水を眺め、瀬戸内海を臨む——そんな日常がここにはあります。

自然と歴史、暮らしがほどよく混ざった西条市は、移住先としても人気です。

さあ、水の音に耳をすませ、西条てっぱんナポリタンの香りに誘われながら、西条市を歩いてみませんか。山と水が育んだ日常の美しさに、きっと心がほどけるはずですよ。



令和7年度 西条秋まつり写真コンテスト大賞作品
『川入り渡御』 森口 昭十四



西条市ホームページ

※アカデミアでは、「広報の効果的実践」研修の修了生や自治体の広報担当者を対象に、キラリと光るふるさと自慢のフォトスナップを、表紙の写真として募集しています。詳しくは市町村アカデミー調査研究部043-276-3127までお問い合わせください。